個別の指導計画を活用した自傷行動がある子どもへの支援

奥　政治（国立久里浜養護学校）

障害の重い子どもの指導では，将来の生活について見通しが持ちにくいと言われることがある。しかし，どの子どもも豊かな生活を過ごしたいという願いをもっており，保護者も子どもの豊かな生活を願っている。

本事例では，自傷行動がある子どもの指導について，保護者，寄宿舎，医療，教師のそれぞれの思いや願いを将来及び現在の豊かな生活という観点から集約し，多面的な観点から子どもにとって今，必要なことを探りたいと考えた。また，個別指導計画の作成とそれを活用した支援の在り方について検証した。

Ⅰ．実態の把握

本事例は，知的障害と肢体不自由を併せ有しており，自傷行動がある小学部の児童であった。

本児の将来及び現在のニーズを，本児にかかわっている人たちから集約しその内容を分析することにより，多面的な角度から重点指導課題を設定したいと考えた。

将来の生活と現在の生活に関する保護者，医療機関，寄宿舎，担任及び担任以外の教師の思いや願いを表１，表２に示す。

表１　将来の生活に関する思いや願い

保護者	支援を受けながら少しでも自立できるような生活を送ってほしい。将来の生活については，グループホームや福祉施設への通所，入所等を考えている。
医療機関	発作や自傷行動を改善し，安定した生活を送ってほしい。
寄宿舎	支援を受けながら少しでも自立できるような生活を送ってほしい。
担任及び担任以外の教師	支援を受けながら少しでも自立できるような，本児なりの豊かな生活を送ってほしい。

表２　現在の生活に関する思いや願い

保護者	自傷行動を減らして，安定した生活を送ってほしい。歩行の安定と歩行距離を伸ばしていきたい。意思表出の手段を身に付けてほしい。
医療機関	発作や自傷行動を改善し，安定した生活を送ってほしい。
寄宿舎	自傷行動を減らしたい。生活のリズムを確立したい。意思表出の手段を身に付けてほしい。
担任及び担任以外の教師	自傷行動の軽減と生活リズムの確立を図っていきたい。身体の動きの習得を図り，生活の中でそれらを活用できるようにしていきたい。本児なりのコミュニケーション手段の確立を図りたい。

上記の実態把握の結果から指導課題を整理し，自傷行動の改善を最重点課題とする必要があると考えた。

Ⅱ．重点指導課題（長期目標）の設定

次の三つの観点から重点指導課題（長期目標）を設定した。設定した重点指導課題（長期目標）を表３に示す。

1）自傷行動の抑制について考える。（本児が分かりやすい方法の検討）

2）見通しを持って生活できるように環境を整える。（生活環境の構造化の検討）

3）自傷行動以外の意思伝達手段の確立を図る。（代替機能のある伝達手段の検討）

表３　平成○年度の重点指導課題（長期目標）

【重点指導課題１】
自傷行動を少なくすることで，情緒の安定や健康の保持・増進を図る。
【健康の保持】【心理的な安定】【環境の把握】
【重点指導課題２】
身体への働きかけを通して，自己の身体に気付く。
【心理的な安定】【身体の動き】【環境の把握】
【重点指導課題３】
好きな遊びやおもちゃを介して，人や物とのかかわりを広げながら，コミュニケーション行動に必要な基礎的な力を高める。
【健康の保持】【心理的な安定】【コミュニケーション】

Ⅲ. 学習の指導計画（指導内容・方法の検討）

重点指導課題（長期目標）を達成するために表４に示す三つの観点から，内容・方法を検討した。

また，個別の指導計画作成のメリットの一つである一貫性や継続性を図り，生活に生かすために次のような取組みを行った。

1）教室の教師間の共通理解と連携

教室会や朝の連絡会等を利用して，随時情報提供を行うことで共通理解を図った。

2）寄宿舎との連携

寄宿舎との定期協議において，個別指導計画に基づく指導の経過と評価を報告したり，不定期協議により情報交換を行ったりした。

3）保健スタッフとの連携

保健室を移動の際の中間地点の拠点とすることについて，取組みの共通理解を図った。

4）家庭との連携

授業参観の機会等を利用して指導場面を実際に保護者に見てもらい，家庭でも同じように取り組んでいただいた。

5）地域社会との連携

本児は，長期休業中等にレスパイトサービスを受けたり，ボランティアとの活動を経験したりする機会があったが，保護者を通してそれらの関係者に学校での取組みについて方法や内容を伝えてもらった。

表４　取組みの三つの観点と手だて

観　点	取　組　み　の　手　だ　て
環境を整理し生活を構造化する。	生活の流れを構造化することで，見通しをもって活動できるようにした。 ア　本児が好み，また落ち着いて過すことのできる教室内に設置したソファーを活動の開始・終了の拠点とした。 イ　食事や好きなブランコへの歩行も，毎日同じような時間に行えるようにした。特に，朝の会→保健室でのお茶の受け取り→のびのび広場でのブランコという活動を，帯状にして一週間の日課に位置付けた。 ウ　シンボルを用いることで，子どもが理解できる伝え方について整理した。特にイの活動の際には，帽子と水筒をシンボルとして用いた。帽子をかぶって水筒を首から下げると，ブランコまで散歩するという活動をルーティンで行った。 エ　子どもが自分で動けるための手がかりとして，保健室を中間地点の拠点とした。
自己の身体の変化に気付くことができるようにする。	音楽を聴いたり，ブランコの揺れを楽しんだりしていても，自傷行動により活動が中断されることが多く見られた。また，自傷行動が始まる前やしている最中には身体に強い緊張があった。一方，揺れや回転といった身体への働きかけをするとリラックスして動きを楽しみ，身体的な働きかけが有効であった。 身体に直接働きかけることで，過度の緊張状態から適切な状態に戻し，自己の身体の変化に気付くことができるように，腕や肩等の緊張をし緩するような動作の学習を取り入れた。具体的には，以下のことを課題学習として行った。 ア　座位で腰のし緩を行い，正しい動作を習得する。 イ　座位で背や肩のし緩を行い，正しい動作を習得する。 ウ　座位で腕のし緩を行い，正しい動作を習得する。 エ　寝た状態で腕上げを行い，腕や肩，首をし緩することで正しい動作を習得する。
適切なコミュニケーションの手段を形成する。	本児は喜怒哀楽のすべてが自傷という形で表現されてしまっている状況があり，適切なコミュニケーションの手段を形成することで，自傷行動以外で表現できるのではないかと考えた。身体的な働きかけが有効であることから，身振りサインによるコミュニケーションの手段を形成することとした。また，シンボルを用いることで本児に分かりやすく伝える工夫も行った。 一方，苦手なトイレについては，教師の「トイレ」という言葉かけを聞くとて自傷行動が起こるというような状況も見られたため，身振りサインやシンボルの提示を併用した。 身振りサインについては，前担任が指導していた『ブランコに乗る際に「乗せて」「やって」という言葉かけと同時に大人の手のひらや身体を２回たたく』という行動が定着しつつあったため，継続して取り組んだ。さらに，獲得したサインを使用する場面を多く設定したり，いろいろな人に伝えるという状況設定を行うことで，自傷行動以外の方法で伝えたり，相手に自分の意思が伝わる喜びについての経験の拡大を図った。

各学期のねらい（短期目標），内容・方法については，次頁以降に示す。内容・方法については段階性を持たせるようにした。

平成○年度　１学期

Ａ児の指導目標一覧

平成○年５月31日
記入者　奥　政治

長期目標（重点指導課題）	短期目標（１学期の目標）	内容・方法
自傷行動を少なくすることで，情緒の安定や健康の保持・増進を図る。 【健康の保持】 【心理的な安定】 【環境の把握】	常同的に側頭部をたたく時間を減らし，たたかないことを日常化する。	(1) 教師が手を軽く押さえたり，側頭部をたたく前に止めたりする。 (2) ある程度落ち着いた状態であれば，教師の手を握るように支援する。 (3) 握っている手を離し，安定できる側臥位を促したり，興味・関心のある鈴等のおもちゃを渡したりする。【教育活動全般】
	生活の流れを構造化することで，見通しを持って活動する。	(1) ソファーを拠点として行動することで，活動への見通しが持てるようにする。 (2) 食事や午睡の時間等を毎日同じような時間に行えるように促し，学校生活をなるべく一定のペースで過ごせるようにする。【教育活動全般】
身体への働き掛けを通して自己の身体に気付く。 【心理的な安定】 【身体の動き 【環境の把握】	腕や肩等をし緩する動作の学習を通して，し緩の方法を知る。	(1) 座位で腰のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (2) 座位で背や肩のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (3) 座位で腕のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (4) 寝た状態で腕上げを行い，腕や肩，首のし緩を行い，正しい動作を習得する。【課題活動】
	ブランコでの小さな揺れに,慣れる。	(1) 一人乗りブランコのくさりを握るように促す。 (2) ブランコに乗り，大きく揺らす。 (3) 揺れの状態を少しずつ小さくする。 (4) 四人乗りブランコでも同様に(2)～(3)を繰り返し行う。【遊び活動】
好きな遊びやおもちゃを介して，人や物とのかかわりを広げながら，コミュニケーション行動に必要な基礎的な力を高める。 【健康の保持】 【心理的な安定】 【コミュニケーション】	「やって」のサインを使って自分のしたい活動や行動を表現する。（定着を図ったり，場面を増やしたりする）	(1) サインを獲得しつつあるブランコ以外の場面で，教師が「乗せて（やって）」という言葉掛けと同時に手のひらを提示することで，教師の手のひらをたたくサインを促す。 (2) 「乗せて（やって）は？」という教師の言葉掛けのみで，サインを促す。 (3) 何も言わずにサインを待つ。 (4) トランポリン，回転ハンモック，電気自動車，散歩，音楽鑑賞等の場面でも(1)～(3)の手続きを行う。【遊び活動，課題活動】
	教師の「ちょうだい」のサインで，持っているおもちゃを教師に渡す。	(1) 興味・関心のある鈴等のおもちゃを本児に提示する。 (2) ある程度の時間おもちゃで遊んだ後で，教師が本児に「ちょうだい」という言葉掛けと同時に両手のひらをたたくサインを示す。 (3) おもちゃを本児から受け取る。 (4) 繰り返し行い，本児が主体的に渡すように行動を促す。【課題活動】

平成○年度　２学期

Ａ児の指導目標一覧

平成○年９月３日
記入者　奥　政治

長期目標（重点指導課題）	短期目標（２学期の目標）	内容・方法
自傷行動を少なくすることで，情緒の安定や健康の保持・増進を図る。 【健康の保持】 【心理的な安定】 【環境の把握】	常同的に側頭部をたたく時間を減らし，たたかないことを日常化する。	(1) 教師が手を軽く押さえたり，側頭部をたたく前に止めたりする。 (2) ある程度落ち着いた状態であれば，教師の手を握るように支援する。 (3) 握っている手を離し，安定できる側臥位を促したり，興味・関心のある鈴等のおもちゃを渡したりする。【教育活動全般】
	給食の際に，言葉掛けや具体物（実際の給食）を提示することで，食事スペースに見通しを持って移動する。	(1) ソファーを拠点としている本児に対して，少し離れた食事スペースの位置からお盆をたたいて音を出し，「ごはんだよ」の言葉掛けを行う。 (2) 言葉掛けで移動しない場合は，半分の距離からお盆の中身が見えるようにして(1)と同様の手続きを行う。 (3) (2)で移動しない場合は，本児のすぐ近くでお盆の中身が見えるようにして(1)と同様の手続きを行う。【給食場面】
身体への働き掛けを通して自己の身体に気付く。 【心理的な安定】 【身体の動き 【環境の把握】	腕や肩等をし緩する動作の学習を通して，し緩の方法を知る。	(1) 座位で腰のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (2) 座位で背や肩のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (3) 座位で腕のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (4) 寝た状態で腕上げを行い，腕や肩，首のし緩を行い，正しい動作を習得する。【課題活動】
好きな遊びやおもちゃを介して，人や物とのかかわりを広げながら，コミュニケーション行動に必要な基礎的な力を高める。 【健康の保持】 【心理的な安定】 【コミュニケーション】	「開けて」のサインを使って自分のしたい活動や行動を表現する。（定着を図ったり，場面を増やしたりする）	(1) サインを獲得しつつあるトイレのドアを開ける場面で，「開けて」という教師の言葉掛けと同時に手のひらを提示することで，教師の手のひらをたたくサインを促す。 (2) 「開けては？」という教師の言葉掛けのみで，サインを促す。 (3) 何も言わずにサインを待つ。 (4) 散歩の際のドアを開ける場面，給食後の音楽鑑賞等の場面でも(1)～(3)の手続きを行う。【遊び活動，課題活動】
	「ちょうだいは？」という言葉掛けを聞いて，教師と一緒に両手を合わせるサインを行い，教師が持っているおもちゃや牛乳を受け取る。	(1) 興味・関心のあるおもちゃや牛乳を本児に提示する。 (2) 本児が取ろうとするか様子を観察する。 (3) 本児が取ろうとする際に，教師が「ちょうだいは？」と言葉掛けしながら両手を合わせてサインを見せる。 (4) 教師が本児の手を取り，「ちょうだいは？」と言葉掛けしながら両手を合わせてサインを一緒に行う。 (5) 本児が取ろうとした物を渡す。 (6) 場面に応じて繰り返し行い，サインの習得を促す。【課題活動・給食場面】

平成○年度　３学期

Ａ児の指導目標一覧

平成○年12月25日
記入者　奥　政治

長期目標（重点指導課題）	短期目標（３学期の目標）	内容・方法
自傷行動を少なくすることで，情緒の安定や健康の保持・増進を図る。 【健康の保持】 【心理的な安定】 【環境の把握】	常同的に側頭部をたたく時間を減らし，たたかないことを日常化する。	(1) 教師が手を軽く押さえたり，側頭部をたたく前に止めたりする。 (2) ある程度落ち着いた状態であれば，教師の手を握るように支援する。 (3) 握っている手を離し，安定できる側臥位を促したり，興味・関心のある鈴等のおもちゃを渡したりする。【教育活動全般】
	スイッチを使ってカセットテープレコーダーを操作し，好きな音楽を聴くことで，落ち着いて過ごす時間を増やすことができるようにする。	【ソファーで側臥位の状態で】 (1) スイッチを提示し「やって」という教師の言葉掛けでスイッチを押すように促す（押さない場合には，手を添えて一緒に押す）。 (2) ラッチ＆タイマーを併用し，音楽が止まったら(1)と同様の手続きを行う。 【ソファーに腰掛けて，机を前に置いた状態で】 (3) 机上に置いてあるスイッチとラッチ＆タイマーを併用し，音楽が止まったら(1)と同様の手続きを行う。 【課題活動の移動の際に】 (4)　ウエストポーチにカセットテープレコーダーを入れ，握りスイッチを使って，音楽が止まったら(1)と同様の手続きを行う。 【課題活動】
身体への働き掛けを通して自己の身体に気付く。 【心理的な安定】 【身体の動き 【環境の把握】	腕や肩等をし緩する動作の学習を通して，し緩の方法を知る。	(1) 座位で腰のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (2) 座位で背や肩のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (3) 座位で腕のし緩を行い，正しい動作を習得する。 (4) 寝た状態で腕上げを行い，腕や肩，首のし緩を行い，正しい動作を習得する。【課題活動】
好きな遊びやおもちゃを介して，人や物とのかかわりを広げながら，コミュニケーション行動に必要な基礎的な力を高める。 【健康の保持】 【心理的な安定】 【コミュニケーション】	「ちょうだいは？」という言葉掛けを聞いて，教師と一緒に両手を合わせるサインを行い，教師が持っているおもちゃや牛乳を受け取る。	(1) 興味・関心のあるおもちゃや牛乳を本児に提示する。 (2) 本児が取ろうとするかどうかの様子を観察する。 (3) 本児が取ろうとする際に，教師が「ちょうだいは？」と言葉掛けしながら両手を合わせてサインを見せる。 (4) 教師が本児の手を取り，「ちょうだいは？」と言葉掛けしながら両手を合わせてサインを一緒に行う。 (5) 本児が取ろうとした物を渡す。 (6) 場面に応じて繰り返し行い，サインの習得を促す。 【課題活動・給食場面】

Ⅳ．個別指導計画の評価と目標の修正

各学期末に個別指導計画の評価と反省を行ったが，その際に，子どもの側からは目標に対する到達の度合いを，具体的に記述して評価を行った。

また，教師の側からは目標の妥当性（目標設定は，課題を踏まえたものであったか,具体的であったか等），指導の手続きの適切性（手だては具体的に考えられていたか，指導する人，場の設定等は適切であったか等）を具体的に記述して評価を行った。

さらに，目標を十分達成して，次へのステップアップを図りたい場合等の展望についても必要に応じて記入した。

様式としては，表で表し，できるだけ写真を添えて，分かりやすくまとめる工夫を行った。

各学期末の評価・反省を基に，目標をステップアップする，積極的に継続する，目標を変更する，ステップダウンする，という観点から目標の修正を行い，教室に所属している教員で検討を行った。

各学期ごとの経過及び評価は，次のとおりである。

１．１学期の経過及び評価

【重点指導課題１】

短期目標１　常同的に側頭部をたたく時間を減らし，たたかないことを日常化する。

経過	・１学期当初は薬の種類・量ともに変更があり，体調面でも安定しないことが多く，自傷行動も多く見られた。 ・５月末～６月にかけては自傷行動の回数や強さも少なくなりつつあったが，暑さが増すと体調が崩れ，自傷行動も多くなった。 ・教師の手を握ることについては確実になってきた。 ・握っている手を離し，安定できる側臥位に移行することについてもスムーズに行えるようになりつつある。
成果	・内容・方法については，「教師の手を握る」「側臥位になる」ことにつては本児なりに見通しを持ちつつある。 ・常同的にたたく時間については，少しずつではあるが減りつつある。
課題	・体調等の要因により，たたかないことを日常化するまでには至っていないため，継続して取り組む。 ・内容・方法については，１学期の取り組みで本児が見通しを持ちつつあるので，できるだけ支援を少なくする方向で，継続して取り組む。

短期目標２　生活の流れを構造化することで，見通しを持って活動する。

経過	・睡眠の状態（浅眠，断眠），その日の発作等による体調の状態により，午睡の時間が一定せず，一定のペースでの学習は難しかった。 ・ソファーを拠点として,「保健室へお茶をもらいに行く」「のびのび広場に行く」「食事に行く」際に安定して移動する様子が見られたが，まだ確実に行うことは難しかった。
成果	・ソファーを拠点に次の活動場所へ移動することについては，昨年からの継続的な取り組みにより，見通しを持ちつつある。 ・午睡の時間については，体調を考慮して柔軟に対応したことで，その後の活動が安定することが多く見られた。

課題	・のびのび広場に行く際に帽子，食事の際に具体物といったような活動とシンボルの組み合わせにより，ソファーを拠点として次に何をするのかということについての見通しが持てるようになる。

【重点指導課題２】

短期目標１　腕や肩等をし緩する動作の学習を通して，し緩の方法を知る。

経過	・自傷行動が起こったとき，個別指導の時間に取り組んだ。自傷行動が起こったときには，ソファーに一緒に座りたたこうとする腕を軽く止め，腕や肩に入っている過度の緊張をし緩するように身体を通して伝えることで，本児が自分自身で弛緩する様子が見られた。 ・個別指導の場面でも，身体に触られることへの抵抗も少なく，落ち着いて学習することができた。
成果	・過度に入った緊張を，どのようにしてし緩するかということについては，教師の身体への働きかけに対して，正しい動作を習得することができるようになってきている。
課題	・身体のし緩の方法と正しい動作の習得について，継続的に取り組む。

短期目標２　ブランコでの小さな揺れに慣れる。

経過	・本児の好きな活動であるため，主体的に取り組むことができた。一人乗りブランコについては，くさりをしっかり握ることができるようになり，小さな揺れでも笑顔で活動することができた。 ・ブランコが止まると自傷行動が見られた。また，四人乗りブランコでは，小さな揺れでは自傷行動になることがあった。
成果	・くさりをしっかり握り，一人乗りブランコで落ち着いて活動することができ，自傷行動なしで好きな活動に取り組むことができた。
課題	・四人乗りブランコでも，小さな揺れで落ち着いて乗ることができるようになる。 ・揺れが小さくなった（止まった）際に，自傷行動以外で本児が意思を伝えることができるような手段を確立する。

【重点指導課題３】

短期目標１　「やって」のサインを使って自分のしたい活動や行動を表現する（定着を図ったり，場面を増やしたりする）。

経過	・ブランコについては，サインが定着してきた。 ・ブランコ以外の場面では，トランポリンや回転ハンモックに乗りたいとき，散歩に出かける際にドアが閉まっていたとき（開けて）は，本児からサインを提示してきた。 ・トイレから出るとき（開けて），給食後のＣＤを聴くときには，教師が手のひらを提示して言葉かけを添えることで，サインを提示することができた。
成果	・サインを使う場面が広がり，本児からのサインの提示が増えてきている。
課題	・継続的な取り組みにより，サインを使う場面を拡大する。 ・新しいサイン（要求のサイン）の獲得を目指す。

短期目標２　教師の「ちょうだい」のサインで，持っているおもちゃを教師に渡す。

経過	・教師が「ちょうだい」のサインを提示して，本児が持っているおもちゃを担任に渡すという取組みについては，遊びを中断して教師に渡すことについての見通しが持ちにくいようだった。
成果	・あまり成果が見られなかった。（目標の妥当性が低かった）
課題	・今後，見通しが持ちやすいように，飲み物や好きなおもちゃを渡す場面で，「ちょうだいは？」という言葉かけを行いながら，本児と一緒にサインを行うような方法に変更する。（目標の修正が必要）

２．２学期の経過及び評価

【重点指導課題１】

短期目標１　常同的に側頭部をたたく時間を減らし，たたかないことを日常化する。

経過	・２学期にも薬の種類・量ともに変更があり，全般的に自傷行動が少なくなった。しかし，体調面で安定しないときには自傷行動が多く見られた。 ・側臥位を促すだけでは落ち着けない様子も見られたため，立位で前傾姿勢をとったり，座位で腰や背，肩のし緩を行ったりしたところ，側臥位に早く移行することができるようになってきた。 ・右耳の切開後の予後が思わしくなく，保護帽を着用するようなってから，強くたたく様子が見られた。
成果	・立位姿勢や座位姿勢での働き掛けは，学校だけではなく，家庭や寄宿舎でも有効であった。
課題	・体調等の要因により，たたかないことを日常化するまでには至っていないため，継続して取り組む。 ・内容・方法については，１・２学期の取り組みを踏まえて，できるだけ支援を少なくする方向で，継続して取り組む。

短期目標２　給食の際に，言葉掛けや具体物（実際の給食）を提示することで，食事スペースに見通しをもって移動する。

経過	・体調がよく自傷行動も少ないときには，言葉掛けだけでも一人でソファーから立ち上がり，移動することができた。 ・２学期後半から，食事の際に体調が悪いことが多く，ソファーから担任が手を取って一緒に移動することが多くなった。
評価	・言葉掛けや具体物の提示で，食事スペースに移動することについては，見通しがもてるようになった。
課題	・体調等により，できるときとできないときが見られたため，目標についての再検討が必要である。

【重点指導課題２】

短期目標１　腕や肩等をし緩する動作の学習を通して，し緩の方法を知る。

経過	・自傷行動が起こったときには，立位で前傾姿勢をとり，曲げようとするひじを軽く止めて，伸ばす方向に促すことで落ち着く様子が見られた。 ・自傷行動が激しいときには，座位で腰や背，肩のし緩を行うことで，落ち着いて側臥位の姿勢に移行することができた。
成果	・動作の学習を通して，自己し緩の方法や正しい姿勢の保持の方法についての理解が進み，短い時間で腰を起こしたり，背中を伸ばしたりする様子が見られた。 ・右側の背中に側わんの傾向が見られるが，ＰＴ相談や整形外科検診で正しい身体の使い方や姿勢保持ができているとの所見があった。
課題	・身体のし緩の方法と正しい動作の習得について，継続的に取り組む。

【重点指導課題３】

短期目標１　「開けて」のサインを使って，自分のしたい活動や行動を表現する（定着を図ったり，場面を増やしたりする）。

経過	・トイレ・教室・寄宿舎の舎室等のドアが閉まっているときは，本児から自発的に「開けて」のサインを示す様子が見られた。
成果	・サインを使う場面が広がり，本児からのサインの提示が増えてきた。
課題	・継続的な取り組みにより，サインを使う場面を拡大する。 ・新しいサイン（要求のサイン）の獲得を目指す。

短期目標２　「ちょうだいは？」という言葉掛けを聞いて，教師と一緒に両手を合わせるサインを行い，教師が持っているおもちゃや牛乳を受け取る。

経過	・食事場面で教師が牛乳を持って言葉掛けと同時に「ちょうだい」のサインを提示すると，体の前で両手をパチンと合わせる様子が見られるようになってきた。しかし，手のひらを上に向けてのサインの習得については十分に行えなかった。
成果	・「ちょうだいは？」という言葉掛けだけでも教師の方を見たり，体の前で両手をパチンと合わせるサインをしたりする様子が見られた。
課題	・継続的な取り組みにより，サインの定着を図る。 ・より分かりやすいサインへと分化を目指す。

３．３学期の経過及び評価

【重点指導課題１】

短期目標１　常同的に側頭部をたたく時間を減らし，たたかないことを日常化する。

経過	・３学期は薬の種類・量ともに変更はなかった。体調面で安定しないときには自傷行動が見られたものの，全般的に自傷行動が少なくなった。 ・側臥位を促すだけで落ち着けることが多くなり，側臥位を促しても落ち着けないときには，タオルケットを掛けたり，側臥位の姿勢で肩のし緩を行ったりしたところ，早く落ち着くことができるようになってきた。

成果	・自傷行動の時間が減ったため，タンブリンや鈴を操作したり，一人で過ごしたりすることができるようになってきた。
課題	・できるだけ支援を少なくして，落ち着ける時間を長くすることで，活動への参加の機会を確保する。

短期目標２　スイッチを使ってカセットテープレコーダーを操作し，好きな音楽を聴くことで，落ち着いて過ごす時間を増やすことができるようにする。

経過	・スイッチを押すと音楽がかかるという関係性についての理解は十分ではなかったが，音楽が止まるとカセットテープレコーダーを見たり，スイッチに触れたりする様子が見られるようになってきた。
成果	・スイッチに対する興味・関心が高まり，自分から触れたり，握ったりするようになった。 ・スイッチを握ることで，自傷行動を起こさずに過ごす時間ができた。
課題	・スイッチを押すと音楽がかかるという関係性についての理解を進める。 ・落ち着いて状態で机上学習をおこなうようになるまでには至らなかったため，起きた状態でも活動できるように場面設定の工夫をする。

【重点指導課題２】

短期目標１　腕や肩等をし緩する動作の学習を通して，し緩の方法を知る。

経過	・自傷行動が起こったときには，立位で前傾姿勢をとり，曲げようとするひじを軽く止めて，伸ばす方向に促すことで落ち着く様子が見られた。 ・自傷行動が激しいときには，座位で腰や背，肩のし緩を行うことで，落ち着いて側臥位の姿勢に移行することができた。
成果	・自己し緩の方法や正しい姿勢の保持の方法についての理解が進み，座位で背中を伸ばしたり，両手を下ろして歩行したりする様子が見られた。
課題	・身体のし緩の方法と正しい動作の習得について，継続的に取り組む。

【重点指導課題３】

短期目標１　「ちょうだいは？」という言葉掛けを聞いて，教師と一緒に両手を合わせるサインを行い，教師が持っているおもちゃや牛乳を受け取る。

経過	・食事場面で教師が牛乳を持って言葉掛けと同時に「ちょうだい」のサインを提示すると，体の前で両手をパチンと合わせる様子が見られるようになってきた。しかし，手のひらを上に向けてのサインの習得については十分に行えなかった。
成果	・牛乳の場合は，自分から教師の手を２回たたいて要求することがあった。 ・「ちょうだいは？」という言葉掛けだけでも教師の方を見たり，体の前で両手をパチンと合わせるサインをしたりする様子が見られた。
課題	・継続的な取り組みにより，サインの定着を図る。

Ⅴ．結果

１．環境を整理して，生活を構造化することについて

朝の会→保健室でのお茶の受け取り→のびのび広場でのブランコという，帯状の活動については，見通しを持って活動ができるようになり，１学期間で手続きが明確になった。

しかし，９月～１０月にかけて，見通しがもてている活動にもかかわらず，自傷行動が激しくなる状況が見られた。このころは，抗けいれん剤や精神安定剤の種類や量が短い期間で変更になっていることから，このことについての影響が推測されるが，根拠については明確ではない。

１１月になり，寒さのためドアが閉まっていることが多くなり，活動の流れが一部変更になった。そこで，保健室からブランコに移動する際に，担任以外の保健スタッフに「開けて」のサインを行うという課題を追加した。１１月後半から定着し始め，保健室からブランコへ行くという見通しがより明らかになり，自傷行動の回数が減った。

２．自己の身体の変化に気付くことができるようにすることについて

９月～１０月には，薬の種類・量ともに変更があり，体調面で安定しないときに自傷行動が多く見られた。

側臥位を促すだけでは落ち着けない様子も見られたため，立位で前傾姿勢をとったり，座位で腰や背，肩のし緩を行ったりしたところ，側臥位に早く移行することができるようになってきた。

右耳の切開後の予後が思わしくなく，保護帽を着用するようなってから，強くたたく様子が見られた。

自傷行動が起こったときには，立位で前傾姿勢をとり，曲げようとするひじを軽く止めて，伸ばす方向に促すことで落ち着く様子が見られた。

自傷行動が激しいときには，座位で腰や背，肩のし緩を行うことで，落ち着いて側臥位の姿勢に移行することができた。

３．適切なコミュニケーションの手段を形成することについて

ブランコについては，サインが定着してきた。

ブランコ以外の場面では，トランポリンや回転ハンモックに乗りたいとき，散歩に出かける際にドアが閉まっていたとき（開けて）は，本児からサインを提示してきた。

トイレから出るとき（開けて），給食後のＣＤを聴くときには，教師が手のひらを提示して言葉かけを添えることで，サインを提示することができた。

「ちょうだいは？」という言葉かけを聞いて，教師と一緒に両手を合わせるサインを行い，教師が持っているおもちゃや牛乳を受け取るという取り組みについては，食事場面で教師が牛乳を持って言葉かけと同時に「ちょうだい」のサインを提示すると，体の前で両手をパチンと合わせる様子が見られるようになってきた。しかし，手のひらを上に向けてのサインの習得については十分に行えなかった。

４．情報の共有と指導の一貫性・継続性について

1）教室の教師間の共通理解と連携

教室会や朝の連絡会等を利用して，随時情報提供することで共通理解を図った。担任以外の教師が，同じような取り組みを行うことで，本児が混乱せずに活動することができた。

2）寄宿舎との連携

寄宿舎と定期協議や不定期協議を行ったことにより，３学期からシンボルを用いることについて，学校と寄宿舎で同じような取組みを行うことができた。

3）保健スタッフとの連携

保健室を移動の際の中間地点の拠点とすることについては，本児が移動の際に自分から保健室に入り，次の場所へ移動する様子が見られるようになってきた。また，シンボルとしてブランコに移動する際にペットボトルを首にかけることや，部屋から出る際に「開けて」のサインを保健スタッフにすることも定着してきた。

4）家庭との連携

教師がデジタルカメラを携行し，学習場面における本児の様子を撮影し，それらの視覚的な情報を加えて保護者に情報提供を行ったことにより，家庭でも同じような取組みがなされるようになった。

また，保護者が授業場面をＶＴＲに撮影して，家庭でも同じような取組みを行ったことにより，本児は見通しを持って活動することができるようになってきた。

5） 地域社会との連携

長期休業中等に，レスパイトサービスを受けたり，ボランティアと一緒に活動したりする際に，保護者が学校での取組みにの内容や方法を知らせたことによって，本児にどのような対応を行えば良いかが伝わり，スムーズに活動することができたという連絡を受けた。このように，間接的ではあるが，保護者を仲介として学校と家庭とで一貫した指導が行えた。

Ⅵ. 今後の課題

１．個別の指導計画の作成について

1）形成的な評価の在り方について研究を進める必要性がある

2）様式，記入内容の精選を図る必要がある。例えば，目標を具体的に記入すること等。

3）具体的なニーズの集約と分析の方法について，研究を進める必要性がある。

２．教師の役割について

個別指導計画作成においては，関係者の願いを集約・分析することで，多面的な観点からニーズを集約し，作成するように留意してきた。今後の課題として，以下の点があると考えるようになった。

1）教師は，各ニーズを集約するだけではなく，コーディネーターとしての役割を担う必要がある。

2）コーディネーターとしての役割を担う際に，相手の思いや願いについては十分に受け止められるよう努力する必要がある。

個別指導計画を作成し，活用することで，私自身が本児のことを早く理解することができた。今後も，具体的に授業場面を設定し，形成的に評価を行いながら，よりよい活用の在り方について検証を進めたいと考える。